

基督教学研究

第 16 号

故武藤一雄名誉教授追悼号

故武藤一雄名誉教授追悼号 目次

口絵(写真)

故武藤一雄名誉教授略年譜・著作

論文

神・愛・場所 —— ブーバーから武藤への接近の一つの試み ——	水垣 渉	一
アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論における問題設定	田 辺 明 子	二五
殉教者カルタゴ司教キプリアヌスの古代殉教観の軌跡	佐 藤 吉 昭	三〇
古代教会におけるキリスト教経済思想の形成		
——トレルチ「社会学説」研究ノート——	高 野 晃 兆	六
二つの恩恵 ——アウグスティヌス「謙責と恩恵」——	片 柳 栄 一	一七
ルターのカリスマ神祕主義	金 子 晴 勇	二二
言葉と経験 ——ルターとディオニシウスのかかわり——	竹 原 創 一	三三
若きレツシングの宗教思想	安 酸 敏 眞	三九
キリスト教の自然理解について ——序章——	今 井 晋	四一
神の愚かさと人間の賢さ	森 田 雄 三 郎	四九

キリスト教の終末論における将来的なものと現在のなもの	原田博充	三三
「キリスト教と仏教」に関する若干の考察	名木田 薫	三五
モルトマンの聖書理解	笠井 恵二	三五
M・ブーバーとハシデイズム	早乙女 禮子	三七
Wie wird man seiner Hingeburt gewi3?		
—Eine Untersuchung zum Reinen Land Buddhismus der Heian und Kamakura Zeit	マルティン・レップ	三〇

彙報

一九九五年度基督教教學講座講義題目

水垣 渉 教授 演習 [Athanasius: De incarnatione Verbi Dei]

声名定道 助教授 講義

「近代世界とキリスト教思想」
「キリスト教信仰のダイナミズム」

演習

[P. Tillich: Dogmatik, Marburger Vorlesung von 1925]

荒井章三 講師 研究

「ユダヤ教における唯一神教」

片柳栄一 講師 研究

「人間的自由について」

長谷正當 教授 研究

「経験と言語と超越の問題」

演習

[E. Lévinas: Totalité et Infini]

花岡永子 講師 研究

「心の問題」

林 忠良 講師 演習

[S. Kierkegaard: Philosophiske Smuler]

田辺明子 講師 演習

「マルコによる福音書」原典講
読]

藤田正勝 助教授 演習

「Hegel: Phänomenologie des Geistes」

宮谷宣史 講師 演習

「Augustinus: Confessiones」

一九九五年度論文題目

卒業論文 提出者無し

修士論文

金井由嗣

「コヘレト」の構造と思想」

第一号目次

終末論の二類型	武藤一雄
キリスト論の視点	森田雄三郎
初期アウグスティヌスの人間学	金子晴勇
Lumen Christi	佐藤吉昭
ルターの「Original」に関する一考察	早乙女禮子
ルターにおける信仰と礼典	竹原創一
バルト「ローマ人への手紙」における神認識	村山周治

第二号目次

オリゲネスの「キリスト教理解」	水垣渉
ゲッセマネ	大島征二
神学における言葉の問題	竹原創一
アウグスティヌスにおけるキリストの人性について	小池三郎
ギリシア語旧約聖書における <i>taufoia</i> について	伊藤利行
エルンスト・トレルチにおける „Komponing” の概念	安酸敏真
シェリングに於ける「世界経験」について	森哲郎
ルターにおける「外」と「内」についての「考察	片柳俊子

第三号目次

キルケゴール研究の方法について	小川圭治
エイレナイオスと聖書	菊地栄三
ティリッヒの芸術神学について	田辺明子
絶対の相の下に	片柳栄一
ルターの律法理解	宮庄哲夫
聖書へブル語統辞論のテキスト言語学的考察	勝村弘也

第四号目次

ルターの解釈学は「実存論的解釈」といえるか	今井晋
キプリアヌスの教会理解	佐藤吉昭
ノビリの印度伝道	塩谷悟
テンブルックのヴェーバー解釈をめぐる論争	高野晃兆
フィロンとキリスト教	平石善司
ルターの抵抗権思想における服従の問題	早乙女禮子
創世記テキストにおける語りの技法	勝村弘也
シェリングに於ける神話と世界	森哲郎
ヘクサプラ断片の残存率について	伊藤利行

第五号目次

解釈学的教義学の構成について……………森田雄三郎
 内村鑑三と「身体の救い」……………原島正
 言語芸術作品としての旧約聖書物語テキスト
 エルンスト・トレルチにおける……………勝村弘也

「歴史の神学」の構想……………安酸敏真
 教義学的思考における解釈学的循環の問題……………掛川富康

第六号（武藤一雄名誉教授古希記念特別号）目次

神学的宗教哲学について……………武藤一雄
 アレクサンドリアのフィロンにおける……………水垣征二
 能動と受動の問題……………大島征二
 奇蹟物語へのマジナリア……………田辺明子
 アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論への……………秦剛平
 新約聖書学的批判……………秦剛平
 ヨセフスのモーセ物語について……………菊地栄三
 エイレナイオスの人間理解……………佐藤吉昭
 キプリアヌスの『棄教者論』考察……………片藤栄一
 アウグスティヌスの時間論……………今井晋
 ルターにおける「アフエクトゥス」の問題……………金子晴勇
 ルターとアウグスティヌス……………金子晴勇

神学的構造主義の問題……………森田雄三郎
 M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と……………高野晃兆

パリアア民族の概念……………高野晃兆
 浄土系仏教とキリスト教の救済論の……………原田博充
 一異に関する考察……………原田博充

日本の伝統的宗教的心情とキリスト教との……………名木田 薫
 関連について……………塩谷 悟

ウイリアム・ケアリの伝道に対する貢献……………小川 圭治
 神概念の転換……………小川 圭治

第七号目次

ルターと神学的決定論……………金子晴勇
 'Iango Dei'としての精神の自覚の三一的構造……………片柳栄一
 脚下照願……………武藤一雄
 M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と……………高野晃兆
 カスバリの批判（一九三三）……………高野晃兆
 パウル・ティリッヒと象徴の問題……………芦名定道

第八号目次

キリスト教概念の成立（その一）……………水垣 涉
 アルベルト・シュヴァイツァーの「イエス神秘主義」……………笠井 恵二

シエリング『自由論』再考(一) 森 哲郎
 ルターにおける職業観の問題 早乙女 禮子

第九号目次

西田幾多郎とキリスト教 小川 圭治
 R・ブルトマンにとつてのイエスの意義に関して 名木田 薫
 旧約物語テキストにおけるヒンネー(見よ)の機能 勝村 弘也
 シエリング『自由論』再考(二) 森 哲郎
 P・テイリツヒの時間論 芦名 定道
 キエルケゴールの「自己の定義」について 山本 忠義

第十号目次

ルターにおける「体験」の問題——一つの覚書—— 今井 晋
 シュタウピッツとルターの神秘思想 金子 晴勇
 ルターとカールシュタット(一) 宮庄 哲夫
 ルターにおける試練について 竹原 創一
 神学主義と宗教主義 武藤 一雄
 オリゲネス『原理論』に於ける悪の問題序論 久山 道彦

キエルケゴール『死に至る病』の
 「キリスト教的な理解」 信岡 茂浩

第十一号目次

創造と進化——創造における無—— 森田 雄三郎
 ルターとカールシュタット(二) 宮庄 哲夫
 神言表の可能性とそのへ言述的V「合理化」の問題 掛川 富康
 ヘブライズムとギリシア語聖書 伊藤 利行
 エラスムスの「敬虔」概念の倫理的基礎 畑 宏枝

第十二号目次

神探求の場の開示 片柳 栄一
 二つの歴史的社会的イエス研究について 大島 征二
 「思い煩う」(ルカ一・二二・三三)について 田辺 明子
 レッシングの神学思想——序説—— 安酸 敏真
 自由意志論争におけるエラスムスとルター 畑 宏枝
 アントニオスの修道 竹田 文彦

第十三号目次

内村鑑三における「内と外」の論理	原島 正
キリスト教倫理の源泉	名木田 薫
七十人訳翻訳史序説(一)	秦 剛平
隠喩と神学的實在論	芦 名 定道
ニユッサのグレゴリオスの	土 井 健司
「鏡」における神認識の存否	松 丸 健太
オリゲネスにおける神のエネルギー	太

第十四号目次

キルケゴールにおける論理的問題	林 忠良
罪の自覚——その人間学的考察	内 村 公義
モルトマンの歴史理解	笠 井 恵二
——希望の神学と現代世界の問題	笠 井 恵二
探究する聖霊——初期オリゲネスにおける	久 山 道彦
解釈学的原理	久 山 道彦
ニユッサのグレゴリオスにおける	土 井 健司
「鏡」の概念について	土 井 健司
クリュソストモスの解釈学——神理解の	武 藤 慎一
可能性と不可能性の問題を巡って	武 藤 慎一
伊藤邦幸氏の逝去を悼む	高 野 晃 兆

第十五号目次

罪をおかすことよって罪から救贖できる？	森 田 雄三郎
——ユダヤ神秘主義の失敗からの警告——	森 田 雄三郎
アルトマンと聖書	笠 井 恵二
アウグスチヌスの恩寵論	伊 藤 邦 幸
ニシビスのエフライムの解釈学	武 藤 慎 一
P・テイリツヒにおける「カイロス」と認識	武 藤 慎 一
の形而上学——歴史相対主義の克服	武 藤 慎 一
を巡って——	今 井 尚 生
「コヘレトの言葉」の構造と思想	今 井 尚 生
——一人称表現の用法をめぐって——	金 井 由 嗣

執筆者

水垣 渉 京都大学教授

田辺 明子 プール学院大学教授

佐藤 吉昭 京都産業大学教授

高野 晃兆 大阪府立工業高等専門学校教授

片柳 栄一 神戸大学教授

金子 晴勇 聖学院大学教授

竹原 創一 立教大学教授

安酸 敏眞 聖学院大学教授

今井 晋 同志社大学名誉教授

森田 雄三郎 同志社大学名誉教授／大阪学院大学教授

原田 博充 京都みぎわキリスト教会牧師

名木田 薫 岡山理科大学教授

笠井 恵二 京都産業大学教授

早乙女 禮子 大阪体育大学教授

マルティン・レップ NCC宗教研究所研究員

Contents

<i>God, Love and Place : From Martin Buber to Kazuo Muto</i> Wataru Mizugaki
<i>Die Fragestellung bei der Abendmahlsauffassung vom Albert Schweitzer</i> Akiko Tanabe
<i>A new Study of the Ancient Christian Martyrdom</i> —tracing the Idea of St. Cyprian, Bishop and Martyr of Carthago Yosiaki Sato
<i>Der Bildungsprozeß der christlichen Wirtschaftsgedanken in der alten Kirche</i> —Ein Forschungsheft von E. Troeltsch' „Die Soziallehren“— Teruaki Takano
<i>Zwei Gnaden —Augustins “De correptione et gratia” Kapitel X—XII</i> Eiichi Katayanagi
<i>Luther and Christus-Mysticism</i> Haruo Kaneko
<i>Word and Experience —Luther and Dionysius</i> Souiti Takehara
<i>Gedanken über Religion beim jungen Lessing</i> Toshimasa Yasukata
<i>Understanding of Nature in Christianity</i> Susumu Imai
<i>Torheit Gottes und Weisheit des Menschen</i> Yuzaburo Morita
<i>Das Zukünftige und das Gegenwärtige in der christlichen Eschatologie</i> Hiromitu Harada
<i>Some Thoughts on ‘Christianity and Buddhism’</i> Kaoru Nagita
<i>Das Problem der Bibel bei J. Moltmann</i> Keiji Kasai
<i>Martin Buber und der Chassidismus</i> Reiko Saotome
<i>Wie wird man seiner Hingeburt gewiß?</i> —Eine Untersuchung zum Reinen Land Buddhismus der Heian und Kamakura Zeit Martin Repp

第十六号編集実務委員会

小池三郎
高野晃兆
林忠良
片柳栄一
宮庄哲夫
芦名定道

一九九六年十一月二十日印刷
一九九六年十二月一日発行

定価 二〇六〇円

(本体価格二〇〇〇円)

発行者

京都大学基督教学会
京都市左京区吉田本町
京都大学文学部基督教学教室内

発行人

小池三郎

発売元

(株)大阪キリスト教書店
大阪市北区曾根崎新地二丁目一五

印刷所

シャローム工房

本誌の御註文は、最寄のキリスト教書店、もしくは、右記、京都大学基督教学会(振替〇一〇三〇一五七二〇七)へ、送料とも二二二〇円(本体価格二〇〇〇円、送料三〇円)を添えてお申込み下さい。

JOURNAL
OF
CHRISTIAN STUDIES
KIRISUTOKYOGAKU KENKYU

Vol. 16

December, 1996

To the Memory of the late Professor Kazuo Muto

THE SOCIETY OF CHRISTIAN STUDIES
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto Japan